dCS

Elgar Plus

Stereo Digital to Analogue Converter

取扱説明書

株式会社太陽インターナショナル

〒 103-0027 東京都中央区日本橋 2-12-9

日本橋グレイス 1F

Tel : 03-6225-2777　Fax : 03-6225-2778

<URL> http://www.taiyo-international.com

目次

はじめに

製品の概略

dCS エルガープラスは私たちのエルガーをベースに進化した、世界初の 24/96、24/192 処理を行うオーディオファイルに自信を持ってお届けする D/A コンバーターです。スタンダードエルガーに比較して、多岐にわたる革新を遂げております。中でももっとも意義のある革新は DSD 信号を IEEE1394 または、SDIF2 インターフェースを通じて処理が行える点です。次にワードクロックをスレーブモードにして外部クロックを受け入れる点、また同時にワードクロックをマスターとして、他のデジタルリンクと同期できる点です。ファンクションメニューも拡張されております。

dCS D/A は特許技術である 5 ビットデータを 2.822MS/s または 3.072MS/s オーバーサンプリング・アーキテクチュア、リング DAC を応用しております。このリング DAC によって dCS の音楽再生における美意識、即ちローレベルでの細やかな表情を再現し、ダイナミックレンジを拡げて音楽再生を行うことができました。

エルガープラスは CD トランスポートから、44.1kS/s、16 ビットデータを補完し、あなたの CD コレクションをより普遍的なものにします。加えて DVD 24 ビット、96kS/s データを変換し、より深い奥行き感、空気感を再現します。現行のバージョンはマスタークロックとして出力端子を備え、トランスポートとクロックを同期することによりクロックの精度を高めることができます。

IEEE1394 インターフェイスでは、DSD データ（1ビットデータストリーム、2.822MS/s）をアップサンプラー、SACD プレーヤーから受け取り、DSD フォーマットに固有の広い帯域幅のメリットを享受して、変換します。*1

すべての dCS DAC は同一の DSP コードによって運転されるエンジンを搭載しています。プログラム可能なロジックを使用することにより、dCS 製品は非常に柔軟性に富み、アップグレードも可能です。dCS が用意いたしましたアップデート用 CD を CD プレーヤーからダウンロードして、アップデートすることがたやすく行えます。また dCS のサービス代理店は PC から SUS ポートを使用することにより、ダウンロードすることも行います。

＊注 1：dCS は世界初 IEEE1394DSD 端子を備えましたが、後発の各社は dCS とは異なるソフトウェア規格を採用したために、エルガープラスとの互換性はありません。

ご使用になる前に（安全にお使いいただくために）

本機をご使用になる際には、安全上のご注意をよくお確かめ下さい。
以下の注意事項は安全にお使いいただくために大切な内容です。必ず守るようにして下さい。

⚠警告：誤って取り扱うと、死亡や重傷などに結びつく可能性があります。
⚠注意：誤って取り扱うと、傷害又は物的損害などの発生に結びつく可能性があります。

[設置上のご注意]

⚠警告

・定格電圧AC 100V にてご使用下さい。
・付属の AC 電源ケーブルは、本機専用ケーブルですので他の機器に使用しないで下さい。
・ケーブル等の接続はこの取扱説明書に従って確実に行って下さい。不完全な場合には接触不良を招き、火災の原因になります。
・AC電源ケーブルをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いて下さい。コードを無理に引っ張ったりして抜くと断線又は接触不良を招き、感電や火災の原因になります。
・AC電源ケーブルを無理に折り曲げたり、引っ張ったり、ねっじったり、継ぎ足す等の加工は行わないで下さい。火災や感電の原因になります。
・本機の改造や部品の変更は絶対しないようにして下さい。火災や感電、故障、ケガの原因になります。
・水など塗れた手で電源ケーブルを抜き差ししないで下さい。感電の原因になります。
・本機内部に水をこぼしたり、ピン等の金属類を入れないで下さい。感電や火災の原因となります。
・万一、煙が出たり変な臭いがするなどの異常状態が起きた場合は、すぐにAC電源ケーブルを抜き、異常状態がおさまったことを確認してからお買い求めの販売店、又は当社サービス課まで修理を依頼して下さい。そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。

⚠注意

・本機を設置する際にはこの取扱説明書に従って確実に行うようにして下さい。
・本機の取り出し、及び設置する際には細心の注意をし、慎重に行うようにして下さい。落下等でケガや物損を招く原因になります。
・湿度の多い場所で使用しないで下さい。結露等により故障の原因となります。
・ゴミやホコリの多い場所では使用しないで下さい。
・室内温度が5℃～40℃の範囲でご使用下さい。
・振動が多く、水平でない場所には設置しないで下さい。機器の落下等でケガや物損を招く原因になります。
・オーディオラック等に納めてご使用になる場合、通風をしっかり取るなど熱のこもりには充分注意して下さい。故障の原因になる場合があります。

[お手入れについて]

・本体の汚れは、柔らかい乾いた布（シリコンクロス等）で軽く拭き取ってください。ベンジンやシンナーなど揮発性の薬品のご使用は、絶対におやめください。本体の表面が変質する恐れがあります。

⚠注意

・リアパネルの端子等のお手入れの際には、必ずAC電源ケーブルを抜き電源をお切り下さい。感電の原因となることがあります。

初めてのエルガープラス

使用前に本項および「順序」（P.9）をぜひお読みください。ハイファイシステムにエルガープラスをセットするための最短距離です。

梱包

エルガープラス製品の梱包には下記の物が入っています。

・エルガープラス本体
・マニュアル
・コントロールサマリー
・パワーケーブル
・ヒューズ（スペア）

本機のリモートコントロールには以下が含まれます。

・リモートコントロールユニット
・単四電池　3本
・専用ドライバー

安全のために電池は別梱包です。電池の入れ方は P57 を参照ください。

ケーブル類も梱包されています。

・IEEE 1394 ケーブルアセンブリー
・BNC ケーブル

上記リストに照らし合わせて内容を点検ください。損傷があったり、部品の欠品があった場合にはすぐに販売店にお知らせください。本機の梱包材は箱を含め保管なさることをお願いします。

エルガープラスの保証カードは愛用者カードでの登録後、お手元にお届けいたします。

安全のための注意

エルガープラスのサービス用パーツは供給されておりません。ユーザーご自身で、本体の分解、または、内部をあけることなどは危険です。本機自体が不具合である場合には販売店にご相談ください。

重要：パワーケーブルによって本機はグランドアースをとらなければなりません。

AC 電圧設定

初めてエルガープラスをセットするとき、ご使用の電圧と合致しているか、再度ご確認ください。本機は 50 ／ 60 サイクルどちらにも対応します。リアパネルの AC 入力部の下に電圧表示があります。万一ご使用の電圧と表示が異なる場合には決して本機をご使用しないで下さい。電圧が異なる場合、致命的な損傷をエルガープラスに与えてしまいかねませんし、それは保証の対象外となります。また電圧変更をご自身でなさらないでください。

重要：常識的な AC ケーブルをご使用ください。一部のオーディオファイル用パワーコードは必要以上に重く、入力部を破損しかねません。この場合には保証対象外となりますので、十分ご注意ください。

設置

デジタルソースに適切に接続されるよう、エルガープラスをしっかりとした共振の無いベースに設置ください。エルガープラスを同時に使用するチューナーやアンプの直接すぐ上かすぐ下に設置することは避けて下さい。

このマニュルについて

エルガープラスを初めてお使いの方は、「初めてのエルガープラス」（P6）の項をご覧ください。

表示、フォントの意味

一部の文字フォントや表示が通常の文字ではないところがあります。

- **太字のアンダーライン**は他の項をご参照になることをお勧めしています。
- **青**：ハードウェアの項でコントロールとコネクターについての記載
- **黒で囲まれた白抜き太字**：代替コントロール機能（例　メニュー操作）
- **ピンク**：メニュー　頁、またはセッティング
- **グリーン**：ディスプレイ表示
- **赤**：インジケーター

重要事項

重要事項はイタリック（斜体）で書かれています。このイタリック体（斜体）の項を無視した場合には本機に損傷を与えてしまったり、保証の対象外となることがありますので、十分ご注意ください。

このマニュアルは皆様のお役に立つべく十分期を配りまして用意致しましたが、お気ずきの点がありましたら、どうぞ当社までご連絡いただきたく存じます。よりわかりやすいマニュアルにしてまいりたく存じます。

サンプルレート

このマニュアルのサンプルレートの表記はkS/s（キロサンプル／秒）で書かれています。kHzとは技術的には正しくありません。

順序

基本的なオペレーションのためのステップバイステップセッティング（順序）をご説明します。エルガープラスをしばらくお使いになっていらっしゃらない場合には、ご確認の意味でも役に立つ項目と存じます。

最初に

コントロールサマリーシートはメニュー構築構造とフロントパネルコントロールのアウトラインが書かれています。より詳しくは「ソフトウェアメニュー」（P.18）の項をご参照ください。

デジタルインターフェイスの為に、デジタルオーディオ用にきちんと設計されているケーブルをご使用ください。

・AES/EBU インターフェイスには 110Ω、ツィステッドペア、XLR(M)–XLR(F) コネクターでご使用ください。

・SPDF、ワードクロック、または SPDF BNC インターフェイスには 75Ω コアキシャル BNC ケーブルをご使用ください。

・SPDF RCA インターフェイスには 75Ω コアキシャル RCA フォノプラグで端末処理されたケーブルをご使用ください。

・TOS リンクオプティカルインターフェイスには TOS リンク光ファイバーケーブルをご使用ください。

・ST オプティカルインターフェイスには、ST スタイルファイバー光ケーブルをご使用ください。

・IEEE1394 インターフェイスには IEEE1394 ケーブルをご使用ください。本機に付属しています。

下記の通りに行ってください。

● エルガープラス・リアパネルにパワーケーブルを接続、パワー入力部にあるパワースイッチをオンにする。（ | の位置にする）

重要：必要以上に重く太いケーブルは入力ソケットを損傷する場合がありますので、ご使用にならないで下さい。この入力ソケットの損傷は保証の対象外です。

● **Standby** ボタンを押して約 30 秒間お待ちください。エルガープラスが自身でシステム設定を行う。

ディスプレイは次の順で表示されます。**Elgar+**, **Testing...** 次に **No Input**

もし本機が通常の状態を表さない場合には、次のようにリセットできます。

● **Display**（ディスプレイ）ボタンを押している状態で、**Vol/Bal** ボタンを押すとメニューが開く。**Display** ボタンを **Factory**（ファクトリー）が表示されるまで押していく。次に **Vol/Bal** を押し、本機が再起動するまで待つ。

PWR, **MUTE** および入力インジケーターの一つが点灯します。

STEP 1：デジタル入力の選択

ソース機器のスイッチをオンにします。適切ならば、ディスク、テープなどを入れて機器をプレー状態にし、デジタルオーディオデータを起動していることを確かめます。

シングル AES または SPDF ソースとの接続

CD トランスポート、DVD プレーヤーなどのほとんどのソース機器はシングルワイヤデジタル出力に適合しています。通常 RCA コネクターが使用されています。

- ソース機器を適切なケーブルを使用して送り出し機の出力に適合しているエルガープラスの入力（リアパネルにあります）に接続する。
- **Input** ボタンを **Input** インジケーターが選択した入力を表示するまで押す。ディスプレイの右側に **AES1**, **AES2**, **RCA1**, **RCA2**, **TOS**, **ST** または **BNC** のどれかが表示される。

本機はソースとロックされます。ディスプレイは **Lockin**, **d xxx**（サンプルレート）と表示され、次に初期設定値を示します。（**16/44** が表示されるといえますが､**Disp**（ディスプレイ）メニューのセットとソースのフォーマットにより異なる場合があります。）

２系統の AES ソースとの接続

- ご使用のソース機器が AES デュアル接続に対応していることを確認する。
- ソース機器の AES 1(または AES A) 出力をエルガープラス・リアパネルの **AES1** 入力に接続する。そして、AES 2(AES B) を **AES2** に接続。接続は二本の XLR ケーブルで行う。ケーブルが逆になっていない (**AES1** → **AES2** などクロスして接続されていない) ことを確認する。
- **Input** ボタンを **AES1**, **AES2** が表示されるまで連続して押す。

本機はソースにロックされます。ディスプレイは **Locking**, **d xxx**（ベース　サンプルレート）そして初期設定値が表示されます。（**24/192** となりますが、**Disp** メニュー、ソースフォーマットによって表示は異なります。）

IEEE1394 DSD ソースとの接続

- ご使用のソース機器が DSD 機能、1394 リンクを備えていること (dCS SACD トランスポート､dCS アップサンプラーなど)、44.1kHz ワードクロックを発振、正しくセットアップされていること、を確認する。
- ソース機器の 1394 出力をエルガープラスの **1394** 入力に接続。ソース機器のワードクロック出力をエルガープラスの **Wordclock In**(ワードクロックインプット) に接続する。
- **Input** ボタンを **1394** 入力インジケーターが点灯するまで連続して押す。

本機はソース機器の名前が決まるまで（Verdi, purcell などの）**Wait...**, **No-WClk** または **Search** と表示されるかもしれません。必要なら、**Input** ボタンでお聴きになりたい 1394 ソースを選択します。エルガープラスはこの方法で **1394** モードをセットすると、ソースを DSD モードにセットするよりもより早く決定するでしょう。

SDIF/DSD ソースとの接続

- ソース機器が SDIF PCM または DSD 機能を備えていることを確認する。
- ソース機器の CH 1 出力をエルガープラス　リアパネルの **CH1** 入力に、ソース機器の CH 2 出力をエ

ルガープラスの **CH2** 入力に BNC ケーブルを使用して、それぞれ接続する。ソース機器のワードクロック出力をエルガープラスの **Wordclock In** に接続する。ケーブルが CH 1 → CH 2 にクロスしないように注意。

- **Input** ボタンを、**SDIF** または **DSD** が入力インジケーターが点灯するまで（ディスプレイの左側）押す。

PCM または DSD モードは自動的に検出されます。本機はソースにロックされディスプレイには **Locking**, **dxxx**(ベースサンプルレート)、そして初期設定レートが（おそらく、**16/44.1** または **DSD**、ソースフォーマットと **Disp** メニューのセッティングによりますが）表示されます。

- STEP 2 へ進む

STEP 2：アナログ出力の接続

以下2項の内どちらかを選択

プリアンプを使用する場合

- プリアンプボリュームコントロールを最低レベルにする。
- エルガープラスリアパネルの XLR または RCA の出力をお使いになるプリアンプの入力端子に接続する。
- エルガープラスのロータリー **Volume**（ボリューム）を時計方向に廻しきり、ボリュームを最大にする。ディスプレイには **Vol 0.0** と表示される。
- ゆっくりとプリアンプのボリュームを最適レベルまで上げていく。

パワーアンプダイレクトに接続する場合

- エルガープラスの **Volume**（ボリューム）を反時計方向に廻しきってボリュームを最低にする。ディスプレイには **Vol −60.0** と表示される。
- エルガープラスリアパネルの出力端子 XLR または RCA をご使用のパワーアンプと接続する。
- ゆっくりとエルガープラスの **Volume**（ボリューム）ボリュームを最適レベルまで上げていく。基本的な CD トランスポートとの接続は図1に表示。
- STEP 3 に進む。

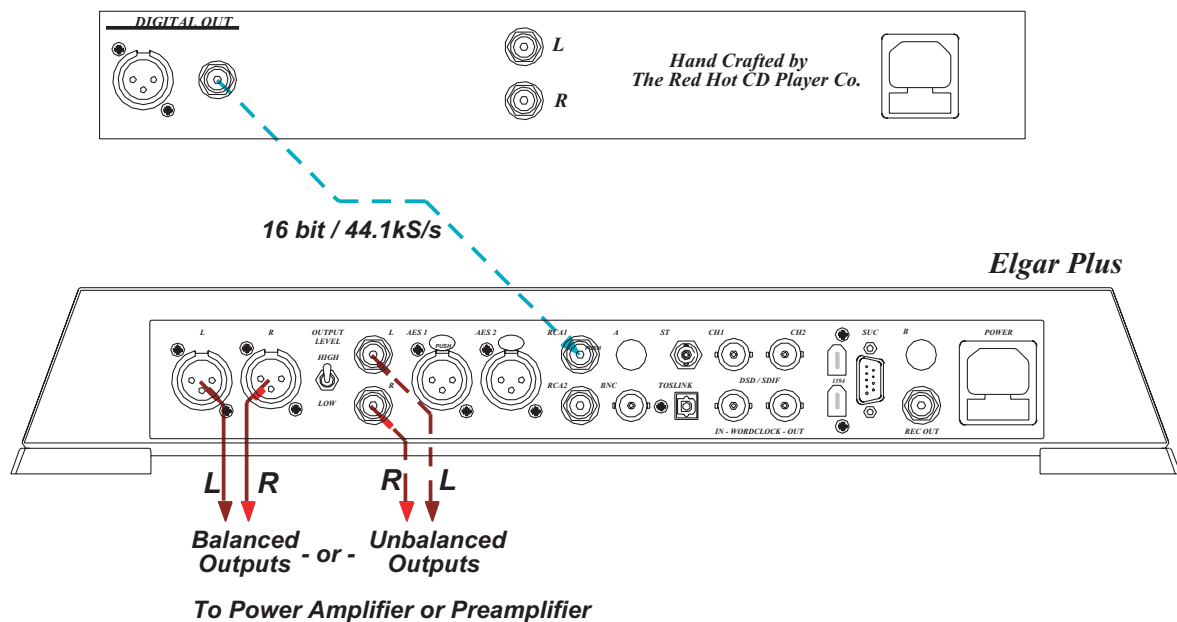



図１：CD プレーヤーとの標準的な接続

STEP 3：出力レベルのセット

プリアンプのボリュームレベルが高すぎる、または低すぎる場合には出力レベルを変更する必要があります。同様にパワーアンプ直結の場合にもエルガープラスの **Volume**（ボリューム）が最適レベルに達しないか高すぎる時も適切レベルに変換できます。適切レベルが **−10.0** より高いか、**−20.0** より低い場合には **Output Level**（出力レベル）で選別します。

- リアパネル向かって左側に **Output Level** スイッチがもうけられています。ボリュームが高すぎる場合には **Low**、逆にボリュームが低すぎる場合には **High** にセットする。

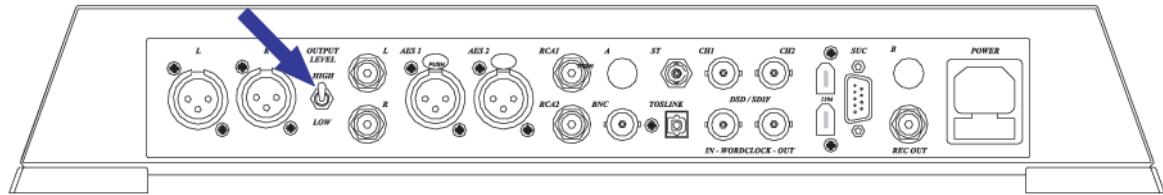



図２：出力レベルスイッチ

STEP 4：エルガープラスのマスターモードを使用する

CDトランスポートにワードクロック入力が備わっている場合、エルガープラスをマスター（主）モードにして、ソース機器をスレイブ（従）モードにさせることができます。もし備わっていなければ、このステップはスキップしてください。

重要：ソースのサンプルレートが 44.1kS/s の場合のみマスターモードが使用できます。

- エルガープラスの **Wordclock Out**（ワードクロック出力）端子をソース機器のクロック入力端子に接続する。ご使用の機器によってはワードクロックスレイブモードにセットする必要があるかもしれません。（トランスポートなどソース機器の説明書をお読みください）
- **Display** ボタンを押しながら **Vol/Bal** ボタンを押してメニューを開く。そして何回か **Display** ボタンを MS:Slav が現れるまで押す。そこで、**Vol/Bal** ボタンを MS:Mastr が表示されるまで何回か押す。
- メニューがタイムアウトするまで待つ。

重要：アップサンプラーをご使用の場合、44.1kS/s ソースを 44.1, 88.2, 176.4kS/s または DSD に変換するようにセットされてなければなりません。そうでない場合、エルガープラスはロックできません。

本機はリロック、または決定するまで数秒かかります。その後、エルガープラスはミュート解除の状態になります。

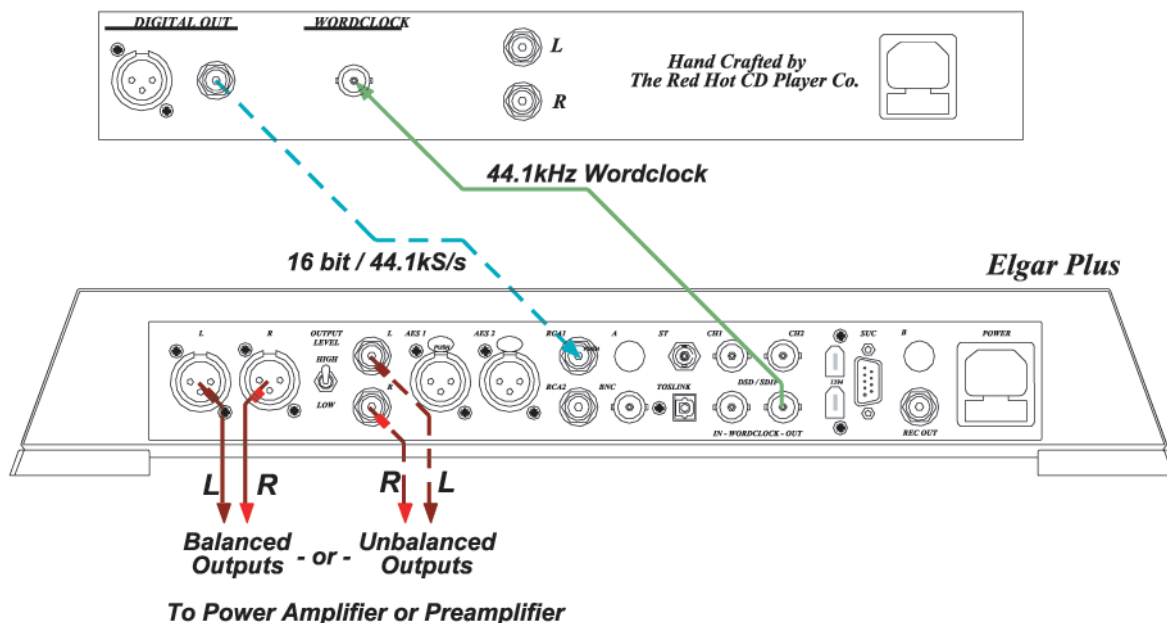



図3：マスターモードを CD トランスポートと使用した場合の接続

他のセッティング

基本的なセットアップ手順はこれで完全です。メニューではより多くの選択肢があります。詳しくは 「ソフトウェアメニュー」（P.18）の項のをご覧ください。

典型的使用例

ヴェルディとエルガープラスをマスターモードで使用する

このセットアップは SACD を **1394** インターフェイスで、CD を **AES1** インターフェイスで、エルガープラスをマスターモードで使用するセットアップです。

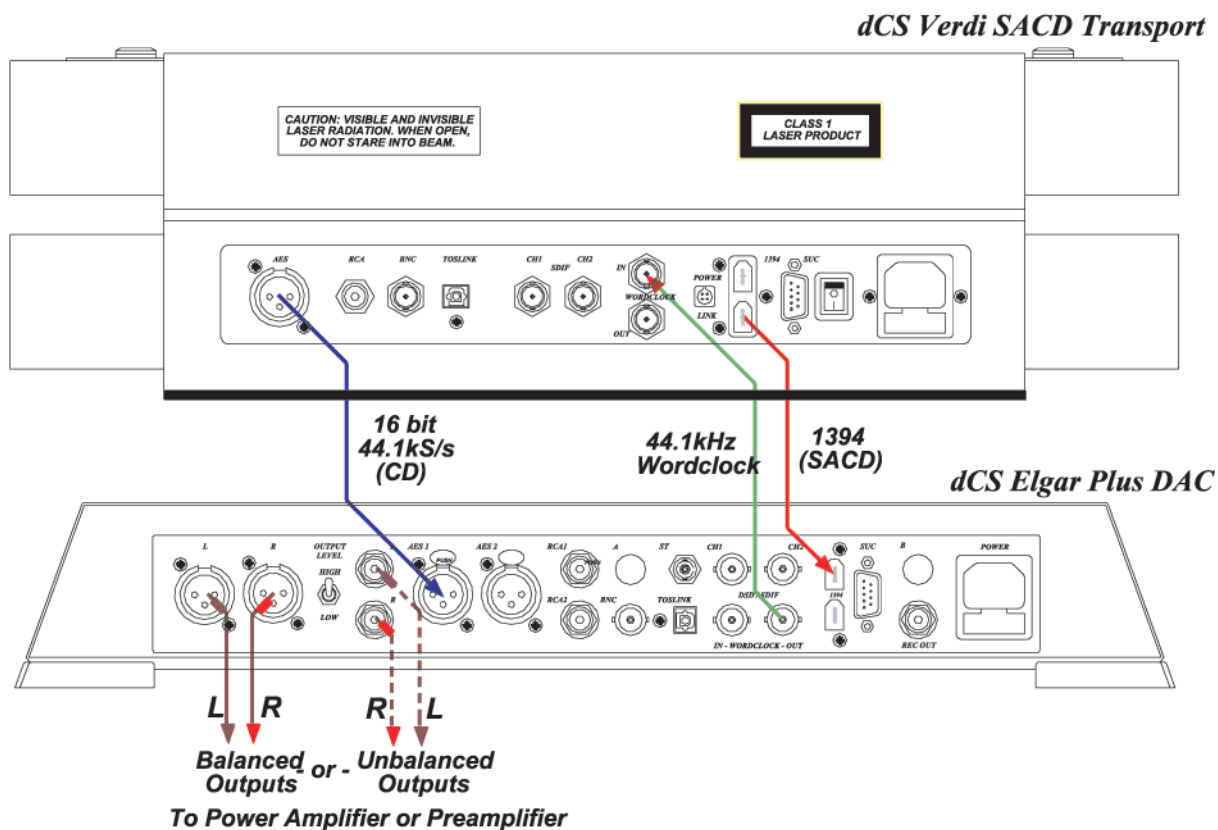



図4 : ヴェルディとエルガープラスをマスターモードで使用

- 上記図4のように接続する。
- エルガープラスのメニューを開き、**Factory**（出荷標準設定）に設定する。**Input** ボタンによって **AES1** 入力を選択する。**MS** ページを **MS:Mastr** に設定し本機が決定するまで待つ。
- **Input** ボタンによって **1394** 入力を選択し、本機が決定するまで待つ。**MS** メニューページを **MS:Mastr** とし、本機が決定するまで再び待つ。
- **Input** ボタンで CD 演奏には **AES1** 入力を、SACD には **1394** を選択する。

ヴェルディ V1.2X とエルガープラス V4.2X では自動的に適切な入力を選択します。

- **Volume**（ボリューム）レベルを適切なレベルにセットする。メニューを再び開き、希望なら異なる **Filter**（フィルター）を選択する。

エルガープラスと 1394 装備のパーセルをヴェルディと使用する

このセットアップは SACD と CD を **1394** インターフェイスを通じてパーセルで CD を DSD にアップサンプルし、エルガープラスをマスターモードて演奏できます。（ただし、CD。を DSD にアップサンプルする意味は効果は見られませんが）

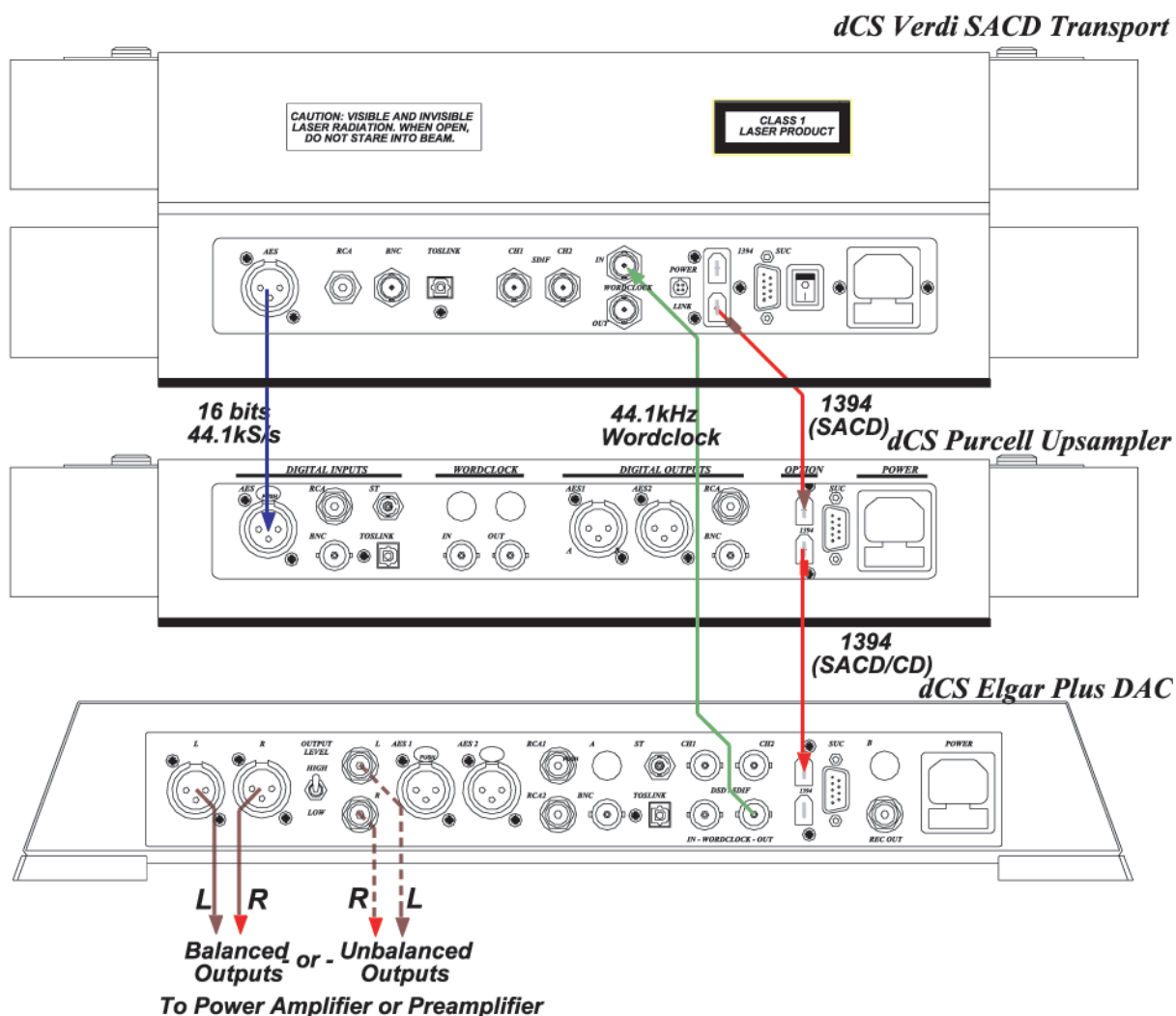



図5：エルガープラスをマスターモードで、ヴェルディ、パーセルと使用

- 上記図5の通り接続する。
- エルガープラス、パーセルのメニューを開き Factory（出荷標準設定）に設定する。

パーセルのセットアップ：

- **Input** ボタンで **AES1** を選択。**Output** ボタンで **44.1 → DSD** を選択する。

エルガープラスセットアップ：

- **Input** ボタンで **1394** を選択し本機が決定するまで待つ。**MS** メニューページを **MS:Mastr** に設定し再び本機が決定するまで待つ。**Input** ボタンでヴェルディ（**Verdi**）の SACD かパーセル（**Purcell**）のアップサンプル CD を選別する。

ヴェルディ v1.2x ＋ エルガープラス v4.2x は自動的に演奏されている入力を選択します。

- **Volume**（ボリューム）コントロールを使用し適切レベルにする。再びメニューを開き、必要ならば Filter の選択する。

エルガープラスとスタンダードパーセルを CD トランスポートと使用する

パーセルが 1394 を装備していない場合でも、ノーマル CD の出力から 24/192 にアップサンプルして使用できます。

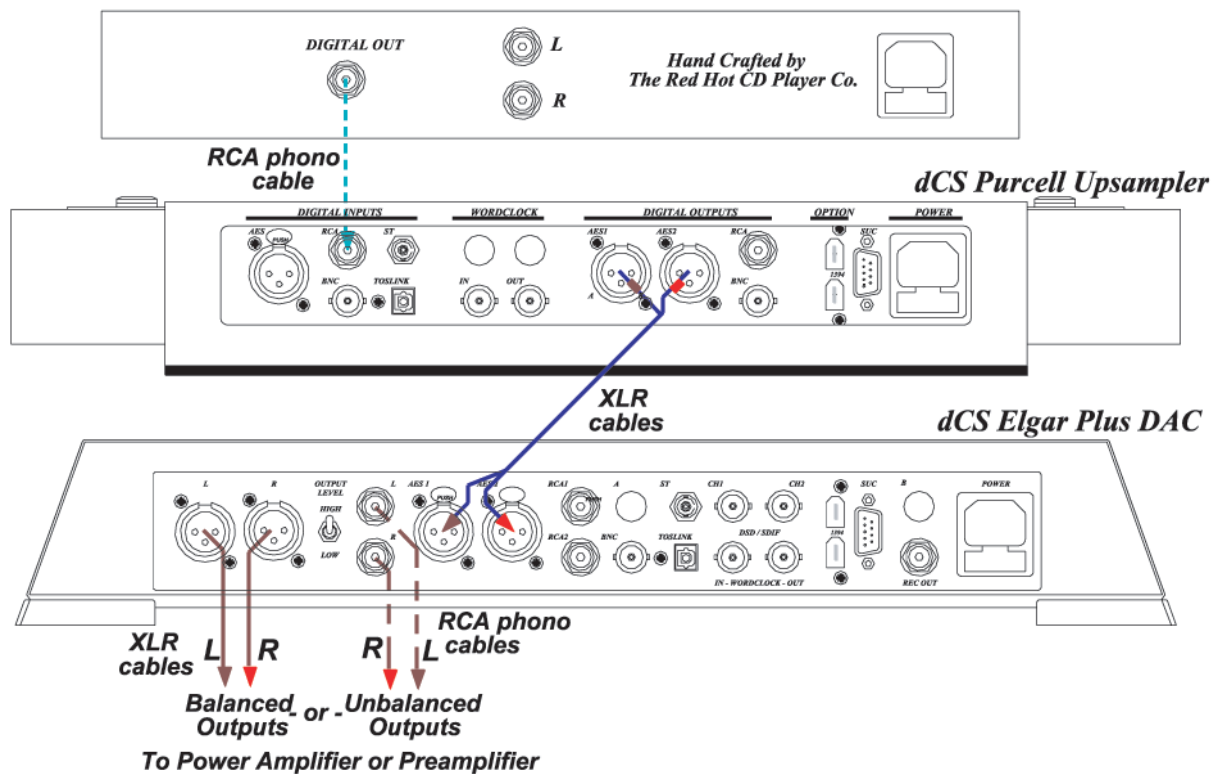



図6：エルガープラスを標準パーセルと CD トランスポートと使用する

- 上記図6のように接続する。

パーセルのセットアップ：

- メニューを開き、Factory（出荷標準設定）に設定する。パーセルのどのデジタル入力でも CD と接続できる。選択するにはパーセルの Input ボタンを使用する。Output ボタンによって 44.1 → 192 への変換をセットする。

エルガープラスのセットアップ：

- メニューを開き Factory（出荷標準設定）と RstSync に設定する。Input ボタンによって AES1 と AES2 を選択する。ボリュームコントロールを使用し適切レベルにする。再びメニューを開き、必要ならば Filter の選択をする。

ソフトウェアーメニュー

メニューを開く場合には **Vol/Bal** を押しながら **Display** を押します。
メニューページを進めていくには **Display** を押します。
選択、ディスプレイまたはオプション変更するには **Vol/Bal** を押します。

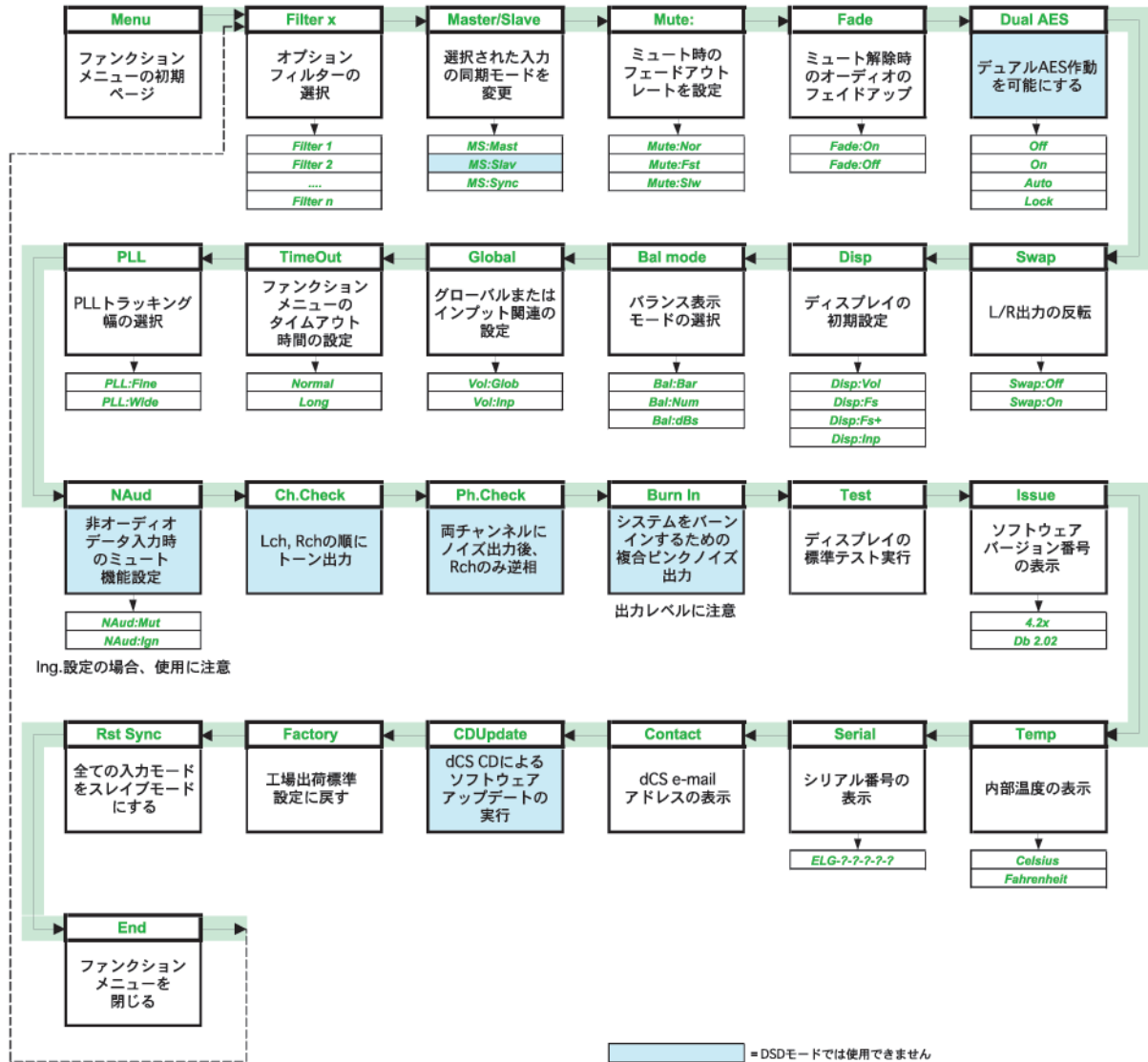



図7：ファンクションメニューのフローチャート

メニューの使用

メニューは様々な機能にアクセスすることが可能です。また、新しいバージョンのソフトウェアによるアップグレードを行うことによって、新機能を追加することが出来ます。

メニューを開く

メニューは 2 個のボタンによってコントロールします。

・Vol/Bal と Display ボタンを同時に押すとメニューを開くことができます。

・Vol/Bal ボタンは Select ボタンの機能も行います。

・Display ボタンはメニューを先へ進めます。－ Step ボタン

dCS リモートコントロールでも、メニューへアクセスできます。

・Function ボタンはメニューを開きます。また、Select ボタンの機能も行います。

・↑ボタンはメニューページを先に進みます。－ Step ボタン

・↓ボタンはメニューページを戻ります。－ Step Back ボタン

最初に Function ボタンでメニューを開くとディスプレイは Menu と表示されます。連続して Step ボタンを押すとメニューのページを進みます。直接特定のページにはいけません。メニューの最初から入り、目的のメニュー項目までページを進めていきます。

メニューページの様式

メニューには3つのタイプがあります。パラメター、インフォーメーション、テストのページです。

パラメターページは現在のセットされているパラメターのチェック、変更を行います。例えば、Bright（輝度）の場合、パラメターページが表示されている場合に一度目の Select ボタンは現状のセッティングを表示します。つぎの Select はページセッティングの変更となります。

インフォーメーションページはその機器の情報を表示します。たとえば Issue（ソフトウェアのバージョン）などです。 Select を押すことによってそのページにある情報が表示されます。

テストページはユーザーが使用する上で役に立つページです。例えば、Channel Check です。テストページが表示されている場合、Select ボタンで、テストがスタートします。

メニューを閉じる

メニューを終えて通常動作に戻るには2通りの方法があります。簡単な方法は5秒待って、タイムアウトし、標準ディスプレイに戻る方法です。もう一つの方法は Step ボタンを End まで押す方法です。その時点で Select を押せば動作状態に戻ります。

本機が希望の機能を設定する前にタイムアウトした場合には、メニューを再度開きます。ページを進めるか戻すかしてやり残したところまで進みます。もし5秒のタイムアウトが短すぎる場合には、Time Out セッティングによって時間を変更できます。

メニュー順序

図7（P.18）のフローチャートをご使用になるか、コントロールサマリーシートをご覧になればメニューがよりご理解いただけます。

次はメニュー〈*1〉に表示されるファンクションメニューを順に説明していきます。操作に慣れてきたら、メニュー〈*1〉を閉じる前に、一度に行うことが便利とお思いになるに違いありません。

〈*1〉一部のソフトウェアアップデートはメニューアイテムの順序を変更するか、オプションを追加するかも知れません。これが発生したら、マニュアルより前にコントロールサマリーシートがアップデートされているのです。

Filter ーアンチイメージングフィルターの設定

エルガープラスでは5つのサンプルレート（32k, 44.1k, 48k, 88.2k ,96kS/s）用に4種類のフィルターと、2 つのサンプルレート（192k,176.4kS/s）用に6種類のフィルターを用意しています。各フィルターはそれぞれ異なった特性を持っています。それぞれの場合、フィルター1～4は対称型フィルターです（移行の前に時間反応を伴う、ミラーイメージの時間反応は後に）。Filter 1（フィルター1）はもっともシャープなカットオフと最小のナイキストイメージングを持っていますが､最大の残存エネルギー分布を持っています。Filter 4（フィルター4）は緩やかなロールオフ（通常かなりのナイキストイメージングを伴う）ですが、最小の残存エネルギー分布に伴う最短のトランジェントレスポンスを持っています。Filter 5（フィルター5）はガウスフィルターで、Filter 6（フィルタ―6）は非対称フィルターです。（最初のステップの前には時間反応がほとんどありません）

DSD モードに対しては4種のフィルターを持っていますが、これらは帯域外のノイズレベルを減少させる目的で備えられています。Filter 1（フィルター1）は最大幅の帯域を持っていますが、システムに依存します。ーもしあなたのシステムが Filter 1（フィルター1）で不満足な結果をもたらす場合には Filter 2 → 3 → 4 の順で試してください。これらのフィルターは帯域外のノイズを減らしますが、犠牲は帯域幅そのものが縮小されることです。フィルター4は測定目的のもので、リスニングの目的ではありません。

エルガープラスは各サンプルレートにおいて、最後に選別されたフィルターを記憶します。例えば 96kS/s に対し Filter 4 をそして、192kS/s に対し Filter 6 を選択したとします。このような個別の設定は入力してくるサンプリングレートの変動によって変化するように記憶されています。（このような時は異なる入力を選択したか、アップサンプリングレートを変更したとき。）

フィルターの選択

ご自身の特定の機器や環境に合うよう、フィルターをいろいろと変えてみることをお勧め致します。特定の用途にどのフィルターがベストであるということはありません。〈*2〉

〈*2〉ユーザーからの反応によりますと、Filter 2 はクラシック音楽に適合するという反応が多く、Filter 3、時には Filter 4 がロックに最適という反応をいただいています。Filter 5、6 とも反応をいただくにはまだ時間が経っていません。M.J. Story, R. Kelly, D.A. McLeod, M.N. Harris によるレポートが（1988 年 11 月）dCS 社のホームページにのっています。

- サンプルレートは説明のために、96kS/s、現在 Filter 1 が設定されていると仮定する。ファンクションメニューを開きディスプレイが Filter 1 と表示するまで進む。
- **Select** ボタンをゆっくり何回か押す。ディスプレイは Filter 2、Filter 3、... と表示して最終的に Filter 1 にまた戻る。選択したいフィルターを選び、ファンクションメニューがタイムアウトするまで待つ。

本機がフィルターを変更するまでに若干の遅れがあります。この遅れの間にはボタンからのコマンドは受け付けません。最も好ましいフィルターを選択するには CD を演奏しながら、フィルターのオプションを試してみることです。そして一番好ましく感じられるものを選択します。イメージの違い、演奏環境やローレベルのディ

テール情報、低域の分解能やヴォーカルの鮮明度などが選択基準の手がかりとなるでしょう。

リモートコントロールによってフィルターの変更をリスニングポジションで確かめることができます。(P.41 参照)

MS ーマスター／スレイブオペレーション

これは入力ベースで行われます。入力がマスターモードかスレイブモードで作動するかを決定します。オプションは各入力に対し独立していますが、次の通りです。

MS:Slav　Slave はスレイブモードで、ほとんどの DAC はこのモードで作動します。スレイブモードでは PLL は入力信号にロックされ、それに同期します。DSD モードではこの設定はできません。

MS:Mastr　Master はマスターモードで、エルガープラスはマスタークロックとして作動します。**Word-clock Out**（ワードクロックアウト）から 44.1kHz クロックを発信します。これは例えば、CD トランスポートに向かいます。CD トランスポートの出力はここで DAC VCXO にロック、DAC はクロック周波数を知っていますから入力データをデコードするのみの作業となります。

MS:Sync　sync モードでは PLL は選択された入力からのデータを取り込みながら、**Wordclock In**（ワードクロックイン）に接続されたマスタークロックにロックされます。ソースはマスタークロックにロックされていなければなりません。仮にワードクロックが標準周波数ではない場合、取り込み可能な周波数レンジを超えている、またはスーパークロックの場合にはディスプレイには一分間、次のように表示されます。**Locking ...** ,**FS=???** 、次に 10 秒間スレイブモードに戻り、自動的にスレイブモード **MS:Slav** にリセットします。

マスターモード動作では特定の限定された条件件があります。通常 CD トランスポートなどのソースが 44.1kS/s のみで運転されているということ。エルガープラスはこのモードをアップサンプラーとともに使用することがありますが、アップサンプラーの出力は 44.1, 88.2, 176.4 または DSD にセットされなければなりません。

マスターモードのセット

マスターモードを設定する場合、次の手順に従ってください。このモードは CD トランスポートがマスタークロックの恩恵を受けるので、推奨いたします。

- CD トランスポートなどのソース機器をエルガープラスに接続し、その入力を選択する。
- **Wordclock Out**（ワードクロックアウト）を CD トランスポートのワードクロック入力に接続する。
- メニューを開き、**MS:Slav** の表示のところまで、ステップアップし進む。
- **Select** ボタンを押し、ディスプレイが **MS:Mastr** になることを確認する。

（もし、スレイブモード、**MS:Slav** モードに戻りたいときは、同様の手順で戻る。）

ソースが接続され選択されればエルガープラスは **d 44.1** を表示、次に **MS:Mastr**, **44.1kS/s** を交互に約 10 秒間表示します。その後クロック出力を可能にし、動作が準備できました。

アップサンプラーで 176.4kS/s デュアル AES アウトプットにセットした場合、**Dual AES** インプットを選択します。ディスプレイは **d 88.2kS/s**, **MS:Mastr**, **176.4kS/s** の表示を交互に約 10 秒間表示します。

DSD 出力のアップサンプラーを使用の場合、**1394** 入力を選択します。ディスプレイは **Wait...**, **MS:Mastr**, **1394** を交互に約 10 秒間表示します。

192kS/s のような 44.1kS/s の倍数ではない入力を使用した場合には本機はこの周波数をキャッチし、以下のメッセージがディスプレイにスクロールされます。

“**Cant Use Input Frequency in Master Mode. Press... Button to Slave**”

スクロールメッセージ（**Function** for Delius, **Phase** for Elgar Plus）の通りにボタンを押すと、選択された入力はスレイブモードにリセットされます。

Mute ーミュートのフェードアウト時間

ミューティング（消音）前のフェードアウト時間と、ミュート解除前のフェードイン時間を設定します。

● ファンクションメニューを開き、**Menu**（メニュー）ページまで進みます。**Select** ボタンを何回か連続して押すと、ディスプレイは次のように現れます。

Mute:Nor	ノーマルミュート、オーディオは 0.5 秒で消音、復帰します。
Mute:Fst	迅速ミュート、オーディオはすぐに消音、復帰します。
Mute:Slw	スロー消音、オーディオは 2 秒で消音、復帰します。

● お好みのフェードアウト、フェードインを選択したタイムアウトするまで待ちます。

Fade ーリロック後のフェード作動状態

このモードはソースにロックした後、または入力を変更した後にオーディオ信号がゆっくりとアップするフェードの機能です。

● ファンクションメニューを開き、**Fade** ページまで進む。ディスプレイは **Fade-Off**, **Fade-On** を表示する。

● 次に **Select** を押し、上記の設定を選択しタイムアウトまで待つ。

On に設定されると、フェード・アップ／ダウンが完全になるまで、コマンドに対し何も変更が無いかのようにゆっくりと反応します。

Dual AES ーデュアル AES

デュアル AES 接続は dCS によって開発され、44.1, 48kS/s 用に設計された機器に 88.2, 96kS/s のデータの録音することを可能にしました。これにより 24/96 ステレオペアデータに 4 トラックデジタルレコーダーで録音することを可能にしました。デュアル AES モードは業界標準となりました。以来、dCS は 192kS/s まで動作するようにインターフェースを開発し、オーディオバンド幅をダブルにする動作も開発しました。

dCS の光信号以外のシングルワイヤーインターフェイスは 24/96 動作に対応していますが、オーディオファイルのユーザーからの反応では、24/96 に替えてデュアル AES の方が好ましい結果になったとの報告も届いています。その理由ははっきりしませんが数字では同じで、ジッター歪みには無関係のはずです。

24/192 動作ではデュアル AES を使用する以外に選択肢はありません。dCS のハイスピードシングルワイヤーインターフェイスが十分に高速である事実をもってしてもです。

デュアル AES の動作を最大利用するには以下のような条件を満たさねばなりません。勿論、ソース機器がシングル AES 出力ではなく、きちんとデュアル AES データストリームに対応していることです。2本のケーブルは同じ長さが好ましいです (3m 以下)。2本のケーブルは正しいチャンネル間に接続されていること、またはクロスして接続しないでください。

入力をシングルワイヤーとデュアル AES に変更することは、DAC がシングル AES モードに初期化される原因となるかもしれません。この問題を防ぐため、Dual AES ページでは次のオプションを用意しています。

Off	デュアル AES モードに対応していない機器の場合デュアル AES モードを作動させない。
On	フロントパネルの **Input** ボタン （P.34）、リモートコントロールによって （P.41） マニュアル動作で **Dual AES** モードに設定する。

Auto　エルガープラスはデータストリームのメッセージフラッグからシングルワイヤーか **Dual AES** かを検知します。仮に、デュアル AES モードが検知され、一本しかケーブルが接続されていない場合、ソースとシングル AES としてロックします。しかし **AES1**, **AES2** の表示がフラッシュして、ケーブル一本が未接続であることを警告します。

Lock　**AES1**, **AES2** 双方とも動作している状態で、AES インプットを選択すると、本機はデュアル AES モードに強制します。一本のみが接続されている場合、本機は表示がフラッシュして警告します。Lock モードはアップサンプラーを使用するときに特に役立ちます。デュアル AES では、全てを 176.4 か 192kS/s にアップサンプルします。この場合、エルガープラスを Lock モードにしておき、アップサンプラーの入力を選択します。

重要：デュアル AES モード対応の機器すべてがこのようなメッセージフラッグを正しく設定するとは限りません。この場合、Auto モードを選択しないでください。dCS 機器を信頼して使用してください。

- **Dual AES** モードを選択する場合には、ファンクションメニューを開き、**Dual AES** のページまで進む。
- **Select** ボタンを繰り返して押す。ディスプレイはオプションを順次表示sる。選択するオプションに到達したら、メニューがタイムアウトするまで待つ。

Swap ーチャンネルの交換（スワップ）

チャンネルチェックを行いチャンネルを交換するときには、デジタルによって以下の通りに行えます。

- スワップがオフの状態と仮定し、ファンクションメニューを開き **Swap:Off**（スワップオフ）まで進む。
- **Select** ボタンを押す。ディスプレイは **Swap:On**（スワップオン）に変わる。
- 戻る場合には再び上記の通りを行い。

スイッチをオフにした場合にはこのスワップ設定は記憶されません。チャンネルが交換されていた場合には、接続機器のケーブルを再確認して正しいセッティングに直してください。

Disp ー初期ディスプレイ

演奏中にエルガープラスがユーザーの意図した通りの表示をディスプレイに表す作動です。

● ファンクションメニューを開き、Disp（ディスプレイ）ページまで進む。 Select ボタンを繰り返して押すと、以下のメニューが順番に現れる。

Disp:Vol	タイムアウト後、ボリューム・レベルの表示（例　Vol–12.0）
Disp:Fs	タイムアウト後、サンプルレートの表示 (例　44.1kS/s)
Disp:Fs+	タイムアウト後、入力フォーマット（ビット数とサンプルレート）の表示（例 24/192）デジタルサイレンスを受け取ったときは 0 インプットビットが正しく表示されます。
Disp:Inp	タイムアウト後、入力選択の表示（例　AES1）

● 上記から最も好ましいと思われるものを選択しタイムアウトを待つ。

Bal Mode ーバランスモード

2種類のバランスモードからの選択します。

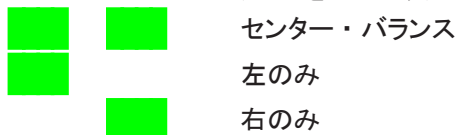
● 機能メニューを開き、Bal:Bar または Bal:Num のページまで進む。

● Select ボタンを押して二種類から選択する。

Bal:Bar はチャンネルバランスをバーで表示。遠距離からの確認はしやすいかもしれません。

センター・バランス

左のみ

右のみ

Bal:Num はパーセント表示です。

100%	100%	センター・バランス
100%	0%	左のみ
0%	100%	右のみ

Global ーグローバル／ローカルボリューム

エルガープラスは2種類のボリューム設定ができます。

・全ての入力に対して同じ Volume（ボリューム）レベルを適用します（Global ボリューム）。

・それぞれの入力に異なったセッティングを適用します。これはソース間で平均音量が異なる場合に有効です。

変更するには以下の通り。

● ファンクションメニューを開き、Vol（ボリューム）ページまで進む。ディスプレイは Vol:Glob, Vol:Inp どちらかを表示する。

● どちらかを選択するため Select ボタンを押し、タイムアウトまで待つ。

TimeOut ーメニューのタイムアウト設定

5秒のタイムアウト時間がメニュー選択に対して短すぎる場合にはこの機能によって、30秒まで変更することができます。

● メニューを開き Timeout（タイムアウト）まで進む。

● Select ボタンを一度押すと表示は Normal（ノーマル）になる。

● もう一度 Select ボタンを押すと表示は Long（長時間）に変わる。

● 変更希望の場合にはこの動作を繰り返し選択する。

PLL－PLL トラッキング　バンド幅

エルガープラスの PLL（フェイズ・ロック・ループ）回路は入力データ・ストリームに対して内部クロックを同期させます。本機はロッキングの際に「ファイン・ロック」と「ワイド・バンド」の2つの違ったモードを持っています。ファイン・ロック・モードではソースのジッター・レベルに対する許容帯域が非常に狭く、ソースが安定したものであれば最良の結果が得られます。この設定が エルガープラスの標準設定になっています。同期を完了するのに、通常約2秒ほどかかります。

CD プレーヤーによっては（非常に高価なものであっても）ジッター・レベルの非常に高いものがあり、それが原因でエルガープラスがロックできず、アナログ出力をミュートしてしまうことがあります。この場合はエルガープラスの PLL 回路をワイド・バンド・モードに切り替えることによって問題なく再生できるようになることがあります。このモードでは 100msec 未満で同期完了します。

設定変更するには

- ファンクションメニューを開き、**PLL:Fine**, **PLL:Wide** のどちらかが表示するまで進む。
- **Select** ボタンによって2種類のどちらかを選択します。ロッキングの問題がある場合には **PLL:Wide** を選択する。

エルガープラスをマスターモードで使用している場合、またはマスタークロックを使用している場合、PLL は **PLL:Fine** モードに設定すべきです。そうでないと、ジッターの改善は失われてしまいます。

NAud－Non Audio　ミューティング

エルガープラスは Non Audio（非音楽）信号が入った場合には通常ミュートになるように設定されています。この場合、ソース信号は欠損データとして判断されます。CD-ROM または他の Non Audio フォーマットをプレーした場合です。

dCS はオーディオ CD の一部でも Non Audio 信号を発信するということがわかりました。このような CD をお聞きになる場合には一時的に自動ミュートを解除することが必要です。

重要：CD-ROM をお聞きになることは不快なものであるばかりか耳、パワーアンプ、スピーカーシステムを損傷する原因ともなりかねません。このモードを使用する場合は十分ご注意ください。エルガープラスをこのモードにしておかないように、ご注意ください。

Non Audio ミューティングの解除

各トラックに Non Audio ミュートを解除させる最も便利な方法は以下の通りです。

- **Non Audio** と表示が出た場合、**Mute**（ミュート）ボタンを押す。エルガープラスはそのトラックを通常に演奏する。**Mute** ボタンをもう一度押し、出力をミュートさせ Non Audio ミュートを元に戻す。

Non Audio をミュートしないモードは、電源を切ったり、再同期をかけたときにキャンセルさせます。これは本機が保護なしでそのままの状態を維持することを防ぐ目的です。

Non Audio ミューティング機能の無効

長時間何らかの理由で Non Audio ミュート機能を無効にする場合、以下の手順で設定します。

- ファンクションメニューを開き、**NAud:Mut**（Non Audio ミュート）まで進む。
- Non Audio 信号を無視するには **Select** ボタンを一度押し、表示は **NAud:Ign.** とする。

この状態でエルガープラスは Non Audio 信号を無視する状態となります。と同時に Non Audio データを演奏

する場合の保護回路は取り除かれた状態となります。このモードで電源が入れられた場合、警告表示は以下のようにディスプレイに表れます。
“Ignoring Non-audio Flag”

Non Audio ミュート機能の復帰

Non Audio ミュート機能を復帰するには、

- ファンクションメニューを開き、NAud:Ign（ノンオーディオイグノア）まで進む。
- Select ボタンを一度押すと、ディスプレイは NAud:Mut（ノンオーディオミュート）に変わる。

Ch.Check ーチャンネルチェック・テスト

ステレオシステムの出力が正しく接続されているかのテストを行います。DSD/SACD モードで不作動になります。

- 最適な音量で音楽演奏にする。
- メニューを開きディスプレイが下記の表示が出るまで進む。

Ch.Check

- Select ボタンを一度押し、テストをスタートさせる。Wait と短期間表示されたら、次の順序で表示されます。

Left

数秒間左チャンネルから混調波が聞こえる

None

1 秒間両チャンネルミュートとなる

Right

数秒間右チャンネルから混調波が聞こえる

Done

テスト終了後に一瞬この表示となる

もしチャンネルが反転されていれば､本機以下のケーブル接続をチェックしてください。一時的に Swap（スワップ）機能を使用した後電源を切れば、この設定は記憶されないことを思い起こしてください。

Ph.Check ーフェーズチェック

各チャンネルの位相が正しく出力されているかどうかのテストです。DSD/SACD モードでは動作しません。

- 適当な音量で音楽を演奏にする。
- メニューを開きディスプレイが下記の表示が出るまで進む。

Ph.Check

- Select ボタンを押しテストをスタートさせる。

Wait（お待ちください）と短時間の表示の後以下のような順でディスプレイに表示されます。

Normal

正相ノイズが両チャンネルから数秒出ます。

None

1秒間無音になります。

Inverted

右チャンネル逆相の信号ノイズが数秒出ます。

Done

テスト終了後に一瞬この表示となる。

両チャンネルとも位相が正相であれば、最初のノイズテストでイメージは中央に表れ、二度目のノイズテストでは中央に表れず広がってしまいます。逆相になっている場合には最初のテストではイメージははっきりせず、2度目のテストで中央に現れます。

位相のエラーがあった場合、本機の出力以降の接続を確認してください。dCS DAC Phase（位相）機能によっての位相補正はできません。

Burn In ーバーンイン

重要：システムのバーンイン（慣らし運転、日本ではエージングと言われます）を行う前にこの項の各ステップを必ずお読みください。バーンイン動作は出力信号を最大ボリュームで流します。スピーカーの損傷を防ぐために、あらかじめシステムのボリュームをゼロにしておいてください。

システム全体をバーンインするために混合ピンクノイズを発生させます。DSD/SACD モードでは動作いたしません。

● システムのボリュームを0にする。
● メニューを開きディスプレイが下記の表示が出るまで進む。

Burn in

● Select ボタンを一度押し、バーンインプロセスをスタートする。

エルガープラスは Caution, Loud という警告メッセージを 20 秒間表示します。その後バーンイン信号がゼロから最大レベルまで上がっていきます。その間約 10 秒です。

ディスプレイは Burn in, Caution, Loud をバーンインを行っている間、繰り返し表示します。

スピーカーをバーンインする場合、システムのボリュームを適切なレベルにセットして下さい。バーンインの適切な時間に関しては、システムコンポーネントの製造者または代理店にご相談ください。

● バーンイン信号を止めるには、Step 、Select ボタンのどちらかを一度押す。ディスプレイは"Done"（終了）と表示される。

Test ー ディスプレイテスト

ディスプレイが正常動作しているかのテストです。

● メニューを開き Test（テスト）の表示まで進む。
● Select ボタンを一度押しテストをスタートさせる。

・メインディスプレイが点灯し、下から上へ消灯していく。
・インジケーター LED が順に従って短時間点灯する。
・全てのインジケーターがメインディスプレイの小さい正方形とともに点灯する。
・ディスプレイは"Done"（終了）と表示する。

Issue ー ソフトウェア・バージョンテスト

ご使用の機器に適合しているソフトウェアの番号を表示します。ソフトウェアアップグレード、または機器が異

常動作を起こしたときに必要な機能です。

- メニューを開き **Issue**（イシュー）の表示まで進む。
- **Select** ボタンを一度押し、ソフトウェアのイシュー番号を表示させる。
- **1394** インターフェイスを装備している機器は **Select** ボタンをもう一度押すと 1394 インターフェイスソフトウェアイシューの表示をする。

Temp ー 機器内部温度

この表示は機器の内部、クリスタル発信器付近の温度を表示します。

- メニューを開き **Temp**（温度）の表示まで進む。
- **Select** ボタンを一度押す。華氏表示の温度が表示される。もう一度押すと摂氏温度が表示される。

Serial ー 本機のシリアル番号

ハードウェアコードを含むシリアル番号を表示します。これはご使用の機器のソフトウェアをアップグレードするときに dCS にて必要な番号です。

- メニューを開き **Serial**（シリアル番号）の表示まで進む。メモの用意を。
- **Select** ボタンを一度押すと、ディスプレイにシリアル番号がスクロール表示される。

Contact ー 連絡情報

dCS の e メールアドレスとホームページ URL を表示します。

- メニューを開き **Contact**（連絡）の表示まで進む。メモの用意を。
- **Select** ボタンを一度押すと、連絡に必要なアドレスがディスプレイにスクロールされる。

CDUpdate ー CD によるソフトウェア・アップデート

現在の dCS エルガープラス、ディーリアス、パーセル、そしてヴェルディには **CD Update** メニューページが組み込まれたソフトウェアが入っています。dCS により供給されるソフトウェアを上記の機器では簡単にアップデートすることができます。

標準の CD トランスポート、CD プレーヤー、または dCS ヴェルディが CD をドライブするために必要です。一部の CD プレーヤーは 48kS/s にアップサンプルしたり、ビット数を変換したりして、正確に読み込まないものがあります。このような場合は、ソフトウェアの変更を中止します。

dCS アップサンプラーか DAC をアップデートする場合には次を行います。

- AES または RCA デジタル出力を、トランスポートからアップサンプラーか DAC に接続し、その入力を選択する。**1394** インターフェイスの結線は必ずはずしてください。トラブルの原因となります。

CD トランスポートから他の装置を介在して dCS DAC をアップデートする場合

- 他の装置の AES または RCA デジタル出力から DAC に接続し、その入力を選択する。他の装置をビットからビット (bit for bit) モードに設定する。**1394** インターフェイスの結線は必ずはずしてください。トラブルの原因となります。

dCS トランスポートをアップデートする場合には、CD をドライブすれば自動的にアップデートします。結線などの手順は不要です

全ての dCS 機器は

- アップデート手順は単純ですのでご安心ください。
- パワーアンプをミュート状態にする。
- dCS Update CD をトランスポートに装着、ストップモードであることを確認する。この CD にはアップデートしようとする機器のソフトウェアが入っている。
- アップデートする機器のメニューを開き、その機器のディスプレイの表示が CDUpdate（CD アップデート）となるまで進む。
- Select ボタンを押し、アップデート手順をスタートさせる。

機器はフラッシュメモリーのアップデートに備えて Wait（お待ちください）と表示します。3 ～ 4 分後、その機器は Please Start CD（CD をスタートさせてください）と表示します。

- トランスポートのプレイボタンを押す。

重要：本機のアップデート準備が整っていないときにはトランスポートを停止させておきます。Play ボタンは押さないでください。これは誤動作の原因となりかねません。また、dCS の CD のみをご使用ください。

本機は CD を検証しその間、Scanning（スキャン）と表示します。

dCS CD に何か誤りがあったり、当該製品にマッチしないものであった場合には Wrong（誤り）か Wrong CD か No Index と表示され、通常の動作に戻ります。今までのソフトウェアは変更されませんので心配いりません。CD のホコリやスクラッチをチェックしてみましょう。

もし dCS の CD ではないアップデート CD の場合には本機は Please start CD（CD をスタートさせてください）という表示を 30 秒間繰り返すか、Wrong CD と表示され、その後ノーマルな動作状態に戻ります。

データが正しい場合、本機は Track n（トラック n）を表示します。“n”は番号です。

- トランスポートのトラックを n まで進めるか、そのまま放って置いて自動的に移行するのを待つ。

機器が正しいトラックを発見するまで、Found Track 1（トラック1を発見）と表示し、次に Found Track 2... と適合する正しいトラックを発見するまで、表示していきます。Vx.xx がディスプレイに表示されるとこれが新しいソフトウェアの発行番号です。

次に以下のどちらかのフォーマットによってアップデートの進行状況が表示されます。

・ディスプレイは 0% 0/7 から 99% 0/7 までカウントし Copying（コピー中）と表示され、0% 1/7 から 99% 1/7 とカウントし Copying と表示、最後のセクションがコピーされるまでこのように続きます。いくつかのモデルは 8 項目以下のものもあります。

・移動するドットによってゆっくり 3 から 0 までカウントします。

約 15 分後アップデートは終了し、 機器は自分自身で再起動します。

- もし CD がまだ演奏している状態であれば、それを止める。
- 1394 装備にアップデートされた機器であれば、機器が落ち着くまで約 30 秒待ち、それを数秒間オフにする。その後再びオンにする。

もし機器が 1394 インターフェイスコードで変化を感知しない場合、通常のように再起動し使用準備完了状態となります。

もし 1394 インターフェイスコードがアップデートされていた場合、1394 について新しいコードをフラッシュメモリーに取り入れます。この作業に約 10 分を要します。この作業中、本機は進行状態を示すバーを表示します。次に本機は次の順に表示を行います。Done 5, Done 4, ...,Done 1, その後再起動します。

本機は使用準備 OK です。

もし CD トランスポートが途中で止まってしまったり、アップデート中に誤って電源が落ちたりした場合でも、心配はいりません。オリジナルのソフトウェアは機器の中でバックアップされます。次の手順に従ってください。

チェック手順により、エラーを探しにかかり、Non Seq とディスプレイに表示されます。

● 電源を切って再起動させる。次のメッセージがディスプレイにスクロールされる。

Bad CheckSum- Press Function Button to attempt Recovery

Function ボタン（機能）をリカバリーのために押します

Bad CheckSum- Press Mute button to attempt recovery

Mute ボタン（ミュート）をリカバリーのために押します

Bad CheckSum- Press Menu button to attempt recovery

Menu ボタン（メニュー）をリカバリーのために押します

モデルによって表示が異なります。

● 表示に従ってボタンを一度押す。

オリジナルソフトウェアはこの時点で Wait... と表示されている間に初回のバックアップから復旧されます。数分かかります。リカバリーが完了したら、機器は再起動します。

● もう一度 CD Update の手続きを始めからやり直す。

Factory ー出荷時の工場設定にリストアする

この機能は工場出荷時の設定に、ほとんどのパラメターを戻すものです。誤って設定が変更されたり、標準の設定に戻す必要があったとき、またはお子様が不用意にいじってしまったときなどに有効です。

● メニューを開き Factory（工場）まで進む。

● Select ボタンでメニューのタイムアウトをさせる。

数秒後に本機は再起動しノーマルな動作設定に戻ります。それは以下の通りです。

・Input は AES1。入力選別は本機が 1394 と他の dCS 機器に結線されていれば現在のソフトウェアでは自動的に選択されます。
・フィルターは Filter 1
・位相は Normal
・スワップは Off
・マスター／スレイブモードは全ての入力に対し MS:Slav
・輝度　Bright 4
・ディスプレイは Fs+
・ミュートは Off、Normal スピード
・デュアル AES は Auto（アップサンプラーが探知できた場合）その他の場合は Off
・フェードは On
・ディ・エンファシスは Auto
・バランスは Center
・バランスディスプレイは Bal:Num
・ボリュームは -30dB、Global

・タイムアウトは Normal
・PLL(フェイズロックループ) は Fine
・Non Audio は Mute
・出力レベルは Out :2V（ディーリアスのみ）
・他の設定は最後に使用した状態です。

Rst Sync ー全ての入力をスレイブモードにする

この機能は 1394 インプットを Sync（シンクロ）モードに、そして他の全ての入力をスレイブモードにします。マスターモード設定に問題がある場合や、お子さんが設定を変えてしまったときなどに有効です。

● メニューを開き Rest Sync の表示まで進む。
● Select ボタンを一度押し、メニューがタイムアウトするまで待つ。

ディスプレイは Reset と表示されます。数秒の後機器は再起動し、以下の設定のような通常の作動状態に戻ります。

・Master/Slave は 1394 インプットでは MS:Sync（シンクロモード）
・Master/Slave は 1394 以外のインプットでは MS:Slav（スレイブモード）
・他の設定は最後に設定した通りとなっています。

ハードウェアーコントロール部と接続部

フロントパネル

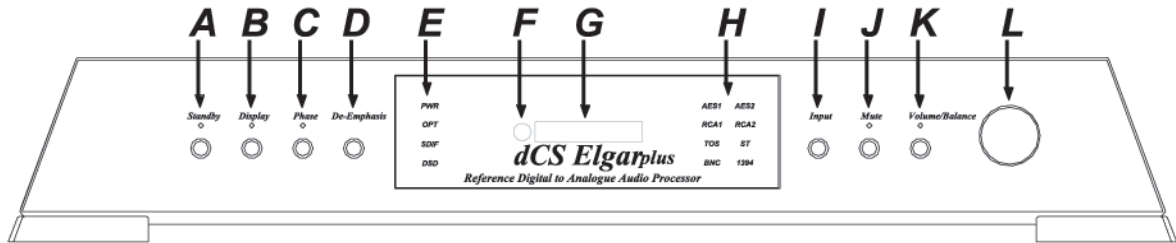



図8：dCS エルガープラス　フロントパネル

フロントパネルの名称

A　**Standby**（スタンドバイ）およびパワーボタン
　　Standby（スタンドバイ）インジケーター
B　**Display**（ディスプレイ）またはメニュー **Step**（ステップ）ボタン
　　Display off（ディスプレイ オフ）インジケーター
C　**Phase**（フェイズ）ボタン
　　Phase（フェイズ）インジケーター
D　**De-Emphasis**（ディ・エンファシス）ボタン
E　**Status**（状況）インジケーター
Fリモートセンサー
G　**Main Display**（メインディスプレイ）
H　**Input**（入力）インジケーター
I　**Input**（入力）セレクターボタン
J　**Mute**（ミュート）ボタン
　　Mute（ミュート）インジケーター
K　**Volume**（ボリューム）/**Balacne**（バランス）モードまたはメニューの **Select**（セレクト）ボタン
　　Balance（バランス）モードインジケーター
L**Rotary**（ロータリー）コントロール

アップグレードした方への注意：2001 年 2 月以前に製造されたエルガープラスの ***Power****(電源) スイッチはリアパネルにあります。****Standby****(スタンドバイ) ボタンは機器のパワースイッチにはなっていません。また、****Status****（状況）と* ***Input****（入力）インジケーターの機能も異なっています。*

(A) スタンドバイボタン（**Standby**）
このボタンはパワーオン／オフスイッチとスタンドバイモードのボタンとなっています。

スイッチオンにするには、**Standby**（スタンドバイ）ボタンを押します。パワーが入ると **PWR**（パワー）インジケーターが点灯し、エルガープラスはパワーアップ準備を行います。（スタンドバイボタンはパワーをオンにしたときにクリックしませんが、これは正常です。）

演奏を終え、**Standby** ボタンを押しますと、本機はスタンドバイ状態になります。アナログ出力はミュートされ、**Standby** ボタンの上のグリーン LED と **Status**（状況）インジケーターの **PWR** インジケーターを除いて全て消えます。このモードではエルガープラスの消費電力は低いですが、暖まっている状態です。

この状態から通常動作に戻すには、**Standby** ボタンを再び押します。**Standby** LED は消え、エルガープラス

はパワーアップし使用できる状態に入ります。

完全にスイッチオフする場合、Standby ボタンを押した状態で Main Display（メインディスプレイ）が PwerDn（パワーダウン）を表示するまで数秒押し続け、離します。

(B) ディスプレイボタン（Display）　（メニュー Step）
Display（ディスプレイ）ボタンは Main Display（メインディスプレイ）とボタン上のグリーン LED の輝度を調整します。最初にこのボタンを押すと現状の輝度を数字と一緒に表示します。Bright x で "x" は番号、最大輝度のときが7で0はディスプレイが消されている状態です。連続して押すと、次のように輝度が変わります。
Bright 7, Bright 6, ... , Bright 1, Bright 0, Bright 7, etc
グリーン LED は、Bright 4 の輝度に設定されています。

Bright 0 で設定すると数秒後 Main Display は入力信号にロックしない場合を除きブランク（消灯）となります。このとき Display ボタンの上の LED が点灯し、Main Display は消灯状態です。この状態で、何らかの操作をするか、ソースにロックしようとしているときには Main Display は一瞬点灯するのでエルガープラスがどの動作をしているかがわかります。

この Display ボタンはファンクションメニューの Step（ステップ）ボタンの役も行います。P.19 に詳しく書いてあります。

(C) フェイズボタン（Phase）
- 両チャンネルの位相エラーを矯正するには、この Phase（フェイズ）ボタンを押しアナログ出力のフェイズを逆転させる。

Phase ボタンの上の LED はこの状態を示し、Main Display は Inverted（逆相）と数秒間表示します。

- Phase ボタンをもう一度押すと正しい位相に戻る。Main Display は Normal（ノーマル）と数秒間表示する。

(D) ディ・エンファシス　ボタン（De-Emphasis）
ノイズ成分の多い磁気テープ録音の日々の副産物として 50/15μs 高周波数エンファシスがあります。テープ・ヒスノイズを除去使用とするため、高周波数帯域を意図的にハイレベルで録音することがありました（Pre-Emphasis）。そして再生の際にディ・エンファシス・フィルターを通すことで、テープ・ヒスノイズのレベルを下げる効果を持たせたのです。

このような処置のされた初期の頃の CD もありますが、ほとんどの現在のディスクはフラットな周波数です。このエンファシスはメッセージフラッグに使われデータストリームに書き込まれています。いくつかのディスクではこのフラッグが正しくなく、凸凹のある周波数特性をもたらしています。エルガープラスは 32,44.1,48kS/s サンプルレートの PCM ソース用のディ・エンファシスに対応できます。より高いサンプルレートには使われません。

CCITT エンファシスはデジタルラジオ送波に使用されています。

- De-Emphasis（ディ・エンファシス）ボタンを何度か押すとメインディスプレイは次のオプションを表示する。

None	ディ・エンファシスを使用せず、メッセージフラッグを無視します。
Auto	データストリームのディ・エンファシスカーブを自動的に摘要します。エンファシスを探知したとき、Main Display はディ・エンファシスが摘要されていることを短時間表示します。

50/15μs　50/15μs カーブのディ・エンファシスを応用し、メッセージフラッグは無視します。
CCITT　CCITT J17 ディ・エンファシスカーブを応用し、メッセージフラッグを無視します。

最後のボタンが押されてからディ・エンファシス設定は5秒間ディスプレイに表示されディスプレイは初期設定に戻ります。

● エルガープラスを Auto（オート）モードにしておくことが便利です。エンファシスフラッグが間違っていた場合、他の3種類の設定で手動矯正できる。

(E) 状況表示（Status Indicator）
４種のインジケーターによります。

PWR は本機の電源が入ったときに点灯します。
OPT は将来の機器性能強化のためにあります。
SDIF, DSD はインプット表示です。

(F) リモートコントロールセンサー
リモートコントローラーをこのセンサーに向けて操作をしてください。

(D) メインディスプレイ（Main Display）
Main Display（メインディスプレイ）はエルガープラスの動作状況が表示されます。

・デジタルソースにロックしていないとき、ディスプレイは No Input を示します。（インプットなし）
・通常のオペレーションでは、ディスプレイはボリューム、サンプルレート、インプットワードレングスとサンプルレート、を表示します。これはメニューの Disp オプション（ディスプレイ　オプション）の設定によります。（P.24）
・ソースにロックしている場合、ディスプレイは Locking, d xxx（サンプルレート数字）の順に表示し、最終的には通常のディスプレイとなります。
・Volume（ボリューム）設定を調整しているとき、ディプレイは Vol　-xx.x. に変わります。最後の変更後 5 秒で通常のディスプレイに戻ります。
・Balance（バランス）設定を調整しているとき、ディスプレイは両チャンネルをパーセンテージ表示か、dB 表示か、またはバー表示を行います。バランスモードの設定はメニューによって Bal で行います。（P.24）ディスプレイは最後の変更から 5 秒で通常の状態に戻ります。

(H),(I) 入力ボタンと入力インジケーター（Input Button and Input Indicator）
Input（入力）ボタンはどのデジタル入力が選択されているかを選択します。その状態は Input（入力）インジケーターが示します。

● 入力インジケーターに希望の入力が表示されるまで繰り返し入力ボタンを押す。

選択肢は AES1(XLR), AES2(XLR), Dual AES(AES1 + AES2 on 2 x XLR), RCA1, RCA2, TOSLINK optical, ST optical, BNC, 1394, DSD(3 x BNC) または SDIF(3 X BNC) です。最後の2種類のインジケーターは Status（状態）を表します。

Dual AES は AES1 と AES2 インプットがデュアル AES ソースと結線されたときのみ利用できます。（P.22）

1394 インプットは IEEE 1394 インターフェイスがアクティブで適切なワードクロックが Wordclock In（ワードクロックイン）に結線されて初めて利用できます。

(J) ミュートボタン（Mute）

● 本機がデジタルソースと結線されていた場合、Mute（ミュート）ボタンを押すことによってアナログ出力をミュート、アンミュートの状態を変更する。Mute インジケーターは点灯し出力がミュートであるこ

とを示す。

本機がデジタルソースとロックしていない場合、アナログ出力は自動的にミュート状態にあります。**Mute** インジケーターは点灯し、**Mute** ボタンは作動しません。

● もし、デスクまたはテープに Non Audio フラッグが乗っているソフトを解除する必要がある場合には「**NAud**」（P.25）を参照する。

(K) ボリューム／バランス　ボタン（**Volume**/**Balance**）　（メニュー **Select**）

Rotary（ロータリー）コントロールは通常ボリューム調節に使います。

● **Rotary** コントロールを **Balance**（バランス）調節に変更するには **Volume**/**Balance** ボタンを一度押す。**Balance** 調整が選択された場合には **Balance** インジケーターが点灯しする。**Volume**（ボリューム）調節に戻るには、**Volume**/**Balance** ボタンをもう一度押して5秒ほど待ちタイムアウトするまで待つ。

ボリューム／バランスボタンは P.19 に詳細説明してあるファンクションメニューの **Select** ボタンの役割もあります。

(L) ロータリーコントロール（**Rotary**）

このコントロールは2つの機能があります。通常の使用ではボリュームかバランスですが、メニューが開かれている間､スクロールします。ロータリーコントロールはストップがもうけられていません。連続して回転します。

Volume（ボリューム）と **Balance**（バランス）機能はデジタル化されています。最良結果を得るには **Volume**（ボリューム）を音楽演奏のときに典型的リスニングレベルで比較的高いレベル（例えば **−20.0** とか **−10.0**）にします。プリアンププボリュームを使用する場合にはエルガープラスの **Volume**（ボリューム）を最大にします。(0.0)

リアパネル

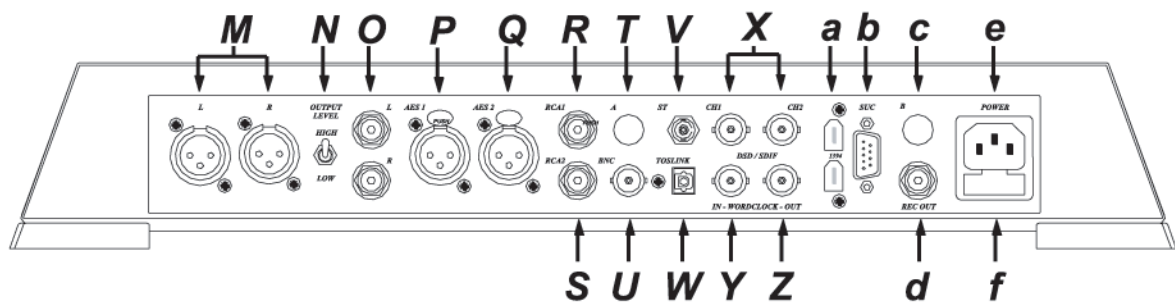



図9 : dCS エルガープラス リアパネル

リアパネルの名称

M　**Balanced analog outputs**（バランス アナログア出力）**L,R** XLR(オス)コネクター
N　**Output Level**（出力レベル）スイッチ
O　**Unbalanced analogue output**（アンバランス アナログ出力）**L,R** RCA ジャック
P,Q　**AES1**, **AES2** AES/EBU デジタル入力 XLR（メス）
R,S　**RCA1**, **RCA2** SPDIF デジタル入力
T　将来機能拡張がある場合のためのスペア位置
U　**BNC** SPDIF 用 BNC デジタル入力
V　**ST** SPDIF オプティカル入力 ST コネクター
W　**Toslink** オプティカル入力 トスリンクコネクター
X　**CH1**, **CH2** DSD/SDIF-2 データ入力 BNC
Y　**Wordclock In** ワードクロックデジタル入力 BNC
Z　**Wordclock Out** ワードクロックデジタル出力 BNC
a　IEEE **1394** 6ピン用インターフェイス × 2
b**SUC** ソフトウェアアップデート用コネクター 9 ピン D タイプ
c　将来機能拡張がある場合のためのスペア位置
d　**REC OUT** SPDIF デジタル出力 RCA
e　**Power** 電力入力プラグ
f　メインフューズホルダー

アップグレード機の注意：2001 年 2 月以前に製造された機器は以下の端子はありません。**RCA2**, **Word-clock Out**, **1394**, T, c のスペア位置

(N) 出力レベルスイッチ（**Output Level**）

Output Level（出力レベル）スイッチはアナログ出力レベルを設定します。ご使用のシステムに最適になるように設定するものです。**High**（ハイ）は 6Vrms、**Low**（ロウ）は 2Vrms です。2種の設定による違いは 9.5dB です。最良な結果を得るために、エルガープラスの **Volume** ボリュームコントロールは **-20.0**dB 以下にはしないで、通常のリスニングボリューム、聴きなれた演奏で決定します。最初は **Low** からスタートし、必要ならば **High** に上げてみます。出力スイッチで調整する前に音楽を大音量で演奏しないようにご注意ください。**High** 設定はかなり大きめです。

(M) バランス アナログ出力（**Balanced analog outputs**）

ご使用のプリアンプがバランス入力端子を備えている場合、エルガープラスの **Balanced Analogue Outputs**（バランス出力）を使用して接続します。最良の結果を得るためには、この端子からプリアンプのアンバランス入力に接続することは推奨しません。アンバランスのみのプリアンプの場合は **Unbalanced analogue output**（アンバランス出力）から接続します。高品質のオーディオケーブルをご使用になることをお勧めします。

(O) アンバランス アナログ出力（**Unbalanced analogue output**）

アンバランス端子のみの機器と接続する場合には高品質ハイスピード RCA ケーブルで接続します。エルガープラスの **Unbalanced analogue output**（アンバランス出力）は非常に高品質です。バランスーアンバランス変換アダプターを使用するよりもこの出力を使用した方が音質的に良い結果を得ることができます。バランスーアンバランスで使用した場合、グランドループのハムを拾う場合もあります。

(P),(Q) AES/EBU　デジタル入力（**AES1**, **AES2**）

AES1, **AES2** はサンプルレートが 96kS/s 以下に独立して使用できます。データフォーマットは AES3 です。

Dual AES（デュアル AES）モードでは双方の入力が一緒に使われます。**Dual AES** は、標準レート、96, 88.2, 48 ,44.1kS/s 24 ビット信号を2つの AES データストリームとして 192, 176.4, 96, 88.2 サンプルレート、24 ビット信号をエンコードします。エルガープラスは2重のデータストリームをデコードし広帯域のアナログ波に変換します。「Dual AES」の項を参照（P.22）

重要：２本の AES 入力はデュアル接続のソース機器と正しく接続されていることをご確認ください。これは、通常 AES 1(または AES A、ソース側)と AES1(エルガープラス)、AES 2(または AES B、ソース側)と AES2(エルガープラス)という結線です。

デジタルオーディオまたはラジオ波用の 110Ω ケーブルをご使用ください。他の機器からの干渉を受けるようなケーブルのご使用はさけてください。

(R),(S),(U) SPDIF　デジタル入力（**RCA1**, **RCA2**, **BNC**）

RCA1, **RCA2**, **BNC** 入力は 96kS/s までのデジタル信号入力を独立して受け入れます。データフォーマットは IEC60958 です。（SPDIF として知られています）

デジタルオーディオ用に設計された 75Ω コアキシャルケーブルをご使用ください。一部のケーブルは適合しないこともあり、クラッキングノイズや動作不良が生じる恐れがあります。特にブラックボックスがついたケーブルやアクティブケーブルはデジタル用と唱っていても、波形がなまって機器をロックさせにくくしてしまう症状が報告されていますのでご注意ください。

(V),(W) トスリンク ST　オプティカル入力（**Toslink**, **ST**）

Toslink（トスリンク）、**ST** 入力は 48kS/s 以下のサンプルレートデジタル信号を光学的に伝搬します。実際にはインターフェイスは 96kS/s までテストされていますが、dCS では非 dCS 機器をソースとした場合には保証いたしておりません。

データフォーマットは IEC60958 です。（SPDIF として知られています）

Toslink 入力にはデジタルオーディオ用に設計されたトスリンクファイバーオプティックケーブルを、**ST** 入力には ST スタイルファイバーオプティックケーブルをご使用ください。ご使用の前にプラスチックのカバーを外してください。

(d) REC デジタル出力（**REC OUT**）

REC OUT（REC 出力）は 96kS/s サンプルレートまでの入力データをシングルワイヤーでループまたはバッファーします。データフォーマットは選別された入力と同様で、AES3 または IEC60958 です。電気的フォーマッ

トは SPDIF です。ここからデジタルレコーダー、他の DAC に接続可能です。デジタルオーディオ用に設計されたされた 75Ω コアキシャルケーブルをご使用ください。

重要：この出力は一本の AES, RCA, BNC, トスリンク，ST とのみ接続されるべく設計されています。ここで指定されているフォーマット以外のフォーマットを接続した場合、REC OUT は L チャンネルデータもしくはフルスケールのノイズを伝搬します。

重要：SPDIF 入力が選択され、コピー禁止フラッグがソースデータに含まれている場合、REC OUT はそのままで、そのデータをレコードできません。

(a) 1394 インターフェイス（IEEE **1394**）
6ピン IEEE **1394** ケーブル用端子を備えています。**Input** ボタンで選択できます。（P.34 参照）

ここでは本機は DSD データを 2.822MS/s で受けます。2つの **1394** とも同じです。正しい動作には、ソースは 44.1kS/s ワードクロックを発振すること（もしくは 44.1kS/s のマスタークロックと接続されていること）そしてエルガープラスの **Wordclock In**（ワードクロック入力）に接続されていなければなりません。推奨は付属の 1.8m の6ピン IEEE 1394 ケーブル、BNC ケーブルです。

(X) DSD/SDIF インターフェイス（**CH1**, **CH2**）
CH1, **CH2** と **Wordclock In**（ワードクロック入力）の2つのデータ入力から構成されています。DSD または SDIF-2 データストリームが接続されていて **Input** ボタンで選択されているとき、エルガープラスは **Wordclock In** にロックされ、データ入力の波形を分析し、自動的に DSD か SDDIF-2 動作を選別します。そして選択された **DSD** または **SDIF** インジケーターが点灯します。DSD モードは根本的に PCM モードと異なるため、必要なソフトウェアをロードするために数秒時間を要します。

DSD インターフェイスはシングルビットデータを 2.822MS/s で受け入れます。ワードクロックは 44.1kS/s です。

SDIF-2 インターフェイスは 32~96kS/s のサンプルレートに対応し、ワードクロックを要求します。

デジタルオーディオ用に設計された 75Ω コアキシャルケーブルで3個の BNC ソケットを使用して接続してください。

重要：３本のケーブルが正しく結線されていることを確かめてください。誤った接続ですとインターフェイスは機能不全になるか、チャンネルが転換されてしまいます。

Wordclock In はエルガープラスと接続されたの他の機器とマスタークロックを連動させるために使えます。

(Z) ワードクロックデジタル出力（**Wordclock Out**）
Wordclock Out（ワードクロック出力）は他の機器とエルガープラスを同調（シンクロ）させる意図で設けました。マスターモードでは 44.1kS/s の決まった周波数をロックされている他の機器に対し出力します。これを中止するにはスレイブモードか sync モードにします。（P.21 MS メニューの項参照）

(b) ソフトウェアアップグレードコネクター（**SUC**）
これは新しいソフトウェアをエルガープラスにロードするために dCS サービス代理店によって使用されるべきものです。

重要：SUC コネクターにはいかなる機器も接続しないでください。エルガープラスのみで

なく、接続された機器の両方を破損しかねません。エルガープラスは PC を接続して運転しないでください。この重要警告を遵守しない場合。保証は保証期間であっても受けられませんし、ご使用機器に悪影響をも与えてしまいます。くれぐれもご注意ください。

(e) IEC 電源入力（**Power**）
3ピン IEC タイプ電源ケーブルをご使用ください。

(f) AC フューズ
20 x 5mm 0.5A T HRC フューズを使用してください。

追記
リアパネルディスプレイは本機の次の情報を表示します。
- 使用電源電圧、周波数レンジ、消費電力
- モデル名 : dCS Elgar Plus
- 単純化されたシリアル番号

ソフトウェアアップデート、電話でのサポートには正面ディスプレイに表示されるフルシリアル番号が必要です。

リモートコントロール

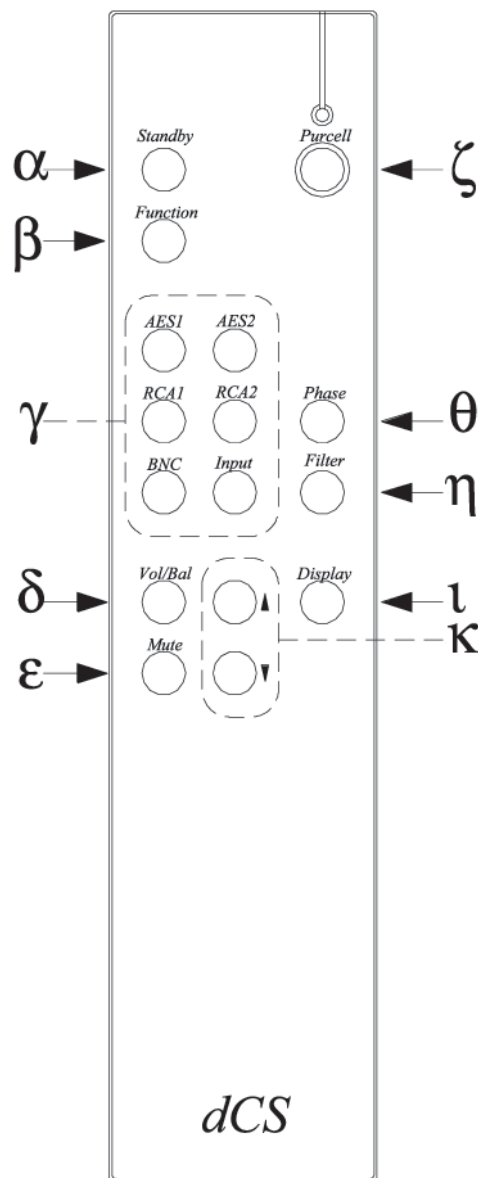



図１０：リモートコントロール

（α）スタンドバイボタン（**Standby**）

エルガープラスをスタンドバイモードにします。エネルギーをセーブしますが、本機を暖めておき、すぐに使用状態にできます。通常の動作には再び押します。

（β）機能ボタン（**Fanction**）

ファンクションメニュー（P.19）を開きます。↑↓のボタン（κ）を使用してメニューページをめくります。もう一度 **Fanction**（機能）ボタンを押すと設定が変更されます。５秒間何も指示動作が与えられないときにはメニューはタイムアウトしますのでご注意ください。

（γ）入力セレクターボタン（**AES1**, **AES2**, **RCA1**, **RCA2**, **BNC**, **Input**）

AES1, **AES2**, **RCA1**, **RCA2**, **BNC** ボタンで入力を選択します。**Input** ボタンは順序立てて押すごとに（個別ボタンを使用しないでも）全ての入力を選択することが出来ます。デュアル AES には適切なソースを接続し、**AES2** を選択し、入力ボタンを押してください。

（δ）ボリューム／バランスボタン（**Vol/Bal**）

Vol（ボリューム）、**Bal**（バランス）モードを変換します。↑ ↓ のボタン（κ）、またはフロントパネルの **Rotary**（ロータリー）コントロールを使用して機能を変更します。バランスモードは5秒でタイムアウトし、**Volume**（ボリューム）モードになります。

（ε）ミュートボタン（**Mute**）

アナログ出力を **Mute**（ミュート）にする、**Mute** 解除するときに押します。

（ξ）パーセルボタンと LED（**Purcell**）

バージョン 1.20 以降のパーセルのリモートコントローラーとして使用できます。**Purcell**（パーセル）ボタンとブルー LED が約5秒間点灯します。この間 **Standby**（スタンドバイ）、**Function**（機能）、**Input**（インプット）セレクター、**Filter**（フィルター）、↑、↓と **Display**（ディスプレイ）ボタンはエルガープラスではなくパーセルをコントロールします。

パーセルコマンドを送信することはリモートコントロールをさらに5秒パーセルモード（LED はオン）にします。LED が点灯しているとき、**Purcell** ボタンを再び押すとエルガープラスモードになります。（または約5秒間待つ）

ブルー LED が点灯しているときに、パーセルはリモートコントロールに反応します。もし LED が消えていると、エルガープラスが反応します。

（θ）位相ボタン（**Phase**）

アナログ出力の位相を正相から **Inverted**（逆相）に変更します。位相インジケーターが点灯します。再度押すと **Normal**（正相）になります。

（η）フィルターボタン（**Filter**）

本機にセットされているフィルター設定を変更します。ナイキストイメージ制御とエネルギーの乱れの関係を変えることによって、音質の差が生じます。各サンプルレートは個別にフィルター設定がストアーされています。そのため、エルガープラスはフィルター設定をする前に適切な機器と接続されていなければなりません。「**Filter**」（P.20）の項をご参照ください。

（ι）ディスプレイボタン

一度押すごとにディスプレイの輝度を減らしていきます。スケールは7から0までです。

（κ）アップ／ダウンボタン（↑ / ↓）

ボタンによって、**Volume**（ボリューム）と **Balance**（バランス）の設定を変更、またはファンクションメニューのスクロールを行います。（P.19 参照）

メンテナンス

dCS のオーディオ機器は特に定期的なメンテナンスを必要としません。
全てのサービスおよびアップグレードは dCS 社または当社のみが行います。

ヒューズの交換

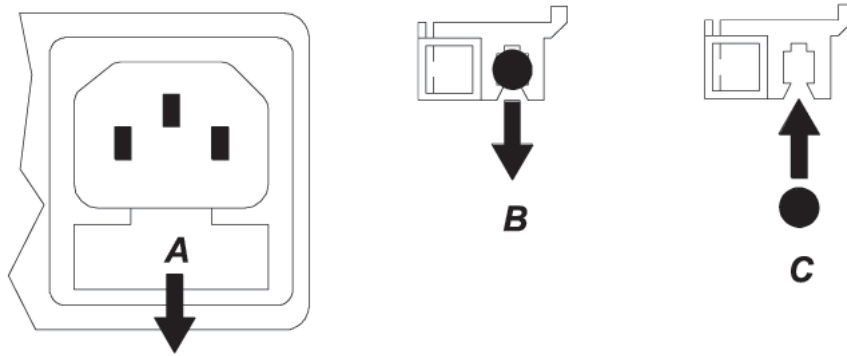



図11：ヒューズの交換

電源ソケットの下にあるヒューズ・ホルダー内にヒューズがあります。ヒューズが飛んだ場合、ヒューズが飛ぶような要因となる障害がないか、まず確認してください。もし障害があるようであれば、まずその障害を取り除いてください。もう障害がないと考えられた段階でヒューズを交換し、再度電源を入れてみてください。
（20×5mm 0.5A T HRC タイプ）

もし連続して飛ぶようであれば、不具合の可能性がありますので直ちに使用を中止し、お買いあげのオーディオ販売店か当社までご連絡下さい。

重要：ヒューズが飛んだときは、必ず同じタイプの物と交換してください。異なるタイプの物と交換することによって製品にダメージを与えたり、引火したり、電気ショックの原因になったりすることがあります。このような場合保証の対象とはなりませんので、ご注意下さい。

ヒューズを交換する

ヒューズを交換するとき、まず電源ケーブルを抜き、小型のマイナスドライバーでヒューズ・ホルダーのタブを引っ張り出します。ヒューズ・ホルダーのクリップから飛んだヒューズを押し出し、新しいものに交換してください。ヒューズ・ホルダーを本機にカチッと音がするように戻してください。スペアのヒューズは製品に 2 個同梱されています。

重要：ヒューズを交換する前に電源を切り、電源ケーブルを抜いてから行ってください。

リモートコントローラーの電池交換

安全上の理由から、3 個の電池を別々に梱包して出荷しています。電池を交換する際は、適切なもの（単四アルカリ電池）と交換してください。

電池カバーをはずす

● リモートコントローラーを裏返し、出荷時に同梱されている付属のドライバーを使用して、カバーを留めている4つのネジを丁寧にはずします。（図12参照）このときネジ穴にダメージを与える可能性がありますので、通常のプラスドライバーは決して使用しないでください。

図12：リモートコントローラーの電池カバー

電池を取り出す

● 電池の + 側をバネの方へ押し、外側に引き出してバッテリーボックスから使用し終わった電池を取り出します。取り出しにくい場合は、小さな鍵あるいはドライバーを使うと簡単に取り出せます。

新しい電池を入れる

● フラットな – 側をホルダーのバネについた方へ押し、スロットに正しく入れます。極性については電池ホルダーに表示してあります。常に 3 このバッテリー全てを同時に交換するようにしてください。

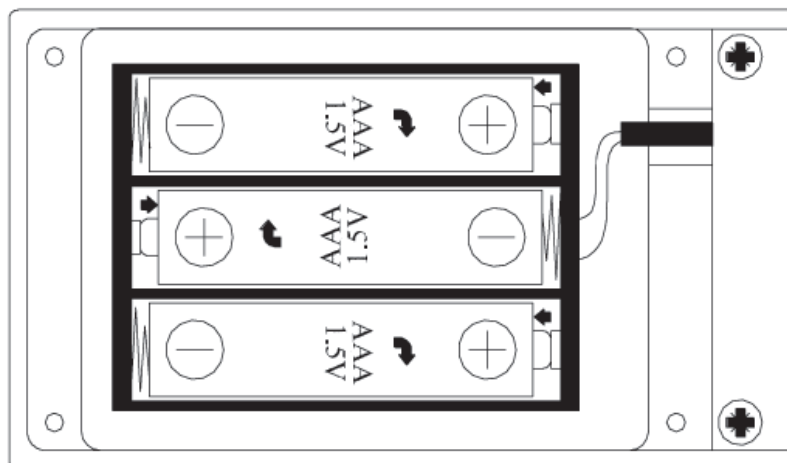



図13：リモートコントローラーの電池交換

重要：電池が正しい極性で装着されていることを確認してください。もし誤って装着した場合、リモートコントローラーにダメージを与えることがあります。また電池が液漏れを起こした場合なども不具合の原因になります。これらの場合は保証の対象外となりますので、ご注意下さい。

● 電池 3 個を電池ホルダーに装着したら、電池ボックスにカバーをはめ込み、カバーのネジ穴がくぼんでいる面が外側になっていることを確認し、2 つのネジで締めます。このとき強く締めすぎないようにご注意下さい。

仕様

サンプリング周波数	32, 44.1, 48, 88.2, 96, 176,4, 192kS/s, 2.822MS/s（DSD）
デジタル入力	AES/EBU（XLR）2 系統 SPDIF（RCA）2 系統 SPDIF（BNC）1 系統 TOS　1 系統 ST　1 系統 SDIF-2（BNC）1 系統
デジタル出力	SPDIF（RCA）1 系統
ワードクロック入力	BNC　1 系統
ワードクロック出力	BNC　1 系統
アナログ出力	バランス（XLR）フローティング 1 系統（2 番ホット） アンバランス（RCA）1 系統
双方向デジタル インターフェイス	IEEE1394　2 系統
電源電圧	100V　50/60Hz
最大消費電力	40W
最大外形寸法	W 461 × H 75 × D 406 mm
重量	12.0kg

※ 本機の仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

問い合わせ先

株式会社太陽インターナショナル

〒 103-0027

東京都中央区日本橋 2-12-9 日本橋グレイス 1F

TEL :　03-6225-2777（代表）

　　　03-6225-2779（サービス課）

FAX :　03-6225-2778

ホームページ :　http://www.taiyo-international.com

07-15-2005